

2024年5月16日掲載 河北新報

製造業者の原料調達効率化

東根に新物流センター

第一貨物、倉庫需要に対応

運送業大手の第一貨物（山形市）が山形県東根市に建設を進めていた新たな物流センターが完成した。製造業者の原料調達を効率化させる同社として初の「製造物流倉庫」となる。トラック運転手の残業規制強化で物流停滞が懸念される2024年問題を背景に、高まる倉庫需要に対応する。新センターは日用品・素材製造のスリーエムジャパ

ンプロダクツ（東京）の専用倉庫。同社の山形事業所から約1キロの場所に立地する。延べ床面積は約1万平方メートル、室内を25度に保ち、約5000枚のパレットを収容できる。

同事業所は主に自動車製造の素材などを製造。これまでは必要な原料を保管する倉庫が県内に点在していたが、第一貨物が建設したセンターに集約することで

第一貨物が東根市に新設した物流倉庫



調達の効率化を図る。

15日に現地であった披露式で、第一貨物の米田総一郎社長は「製造物流は初めての挑戦。必要なノウハウ

を蓄積し、荷主の業務改善に役立てる」と話した。

第一貨物は22年度から倉庫営業を本格化させ、自社倉庫は全国で計17カ所となった。24年問題を受けて輸送の効率化を図りたい荷主からの要望が多く寄せられ、施設整備や人材育成を急いでいる。